(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3183247号
(U3183247)
(45)発行日　平成25年5月9日(2013.5.9)　(24)登録日　平成25年4月10日(2013.4.10)

(51)Int.Cl.　F I
A41G 5/02 (2006.01)　A41G 5/02

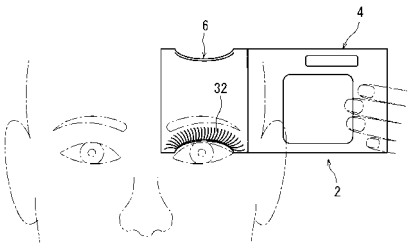
評価書の請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　実願2013-906(U2013-906)
(22)出願日　平成25年2月20日(2013.2.20)

(73)実用新案権者　304046236
株式会社ＳＢＹ
東京都港区六本木六丁目１番２４号
(74)代理人　100075177
弁理士　小野　尚純
(74)代理人　100113217
弁理士　奥貫　佐知子
(72)考案者　緒方　義治
東京都港区麻布台２－３－８

(54)【考案の名称】試着用つけ睫毛支持具

(57)【要約】　（修正有）
【課題】顧客が試着用つけ睫毛を瞼に近接せしめて試着する際に充分容易に指で把持できることに加えて、試着用上つけ睫毛のみならず試着用下つけ睫毛にも適用することができ、そして更に必要に応じて試着用つけ睫毛が如何なる製品であるかを示す表示片等を貼着するためのスペースを確保することができる、新規且つ改良された試着用つけ睫毛支持具を提供する。
【解決手段】試着用つけ睫毛支持具２は、シート片から一体に形成された主部４とつけ睫毛装着部６とを有する。主部４は平面図において直線状に延在する平面形状であり、つけ睫毛装着部６は平面図において弧状に延在する曲面形状である。正面図においてつけ睫毛装着部６の上縁は凹状曲線形状であり、下縁は凸状曲線形状である。
【選択図】図４



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
シート片から一体に形成された主部とつけ睫毛装着部とを有し、該主部は平面図において直線状に延在する平面形状であり、該つけ睫毛装着部は平面図において弧状に延在する曲面形状であり、正面図において該つけ睫毛装着部の上縁は凹状曲線形状であり下縁は凸状曲線形状である、試着用つけ睫毛支持具。
【請求項２】
該主部は正面図において矩形状であり、該つけ睫毛装着部の、該主部に接続されている内側接続縁は、該主部の内側接続縁と完全に合致し、該つけ睫毛装着部の外側自由縁は該つけ睫毛装着部の該内側接続縁と平行で且つ同一長さである、請求項１記載の試着用つけ睫毛支持具。
【請求項３】
該シート片は合成樹脂シート片である、請求項１又は２記載の試着用つけ睫毛支持具。
【請求項４】
該シート片は透明である、請求項１から３までのいずれかに記載の試着用つけ睫毛支持具。
【請求項５】
該主部の上端部には正面図において左右方向に細長く延びる係止用スリットが形成されている、請求項１から４までのいずれかに記載の試着用つけ睫毛支持具。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、顧客がつけ睫毛を試着する際に便宜に使用することができる試着用つけ睫毛支持具に関する。
【背景技術】
【０００２】
下記特許文献１には、瞼の湾曲に応じて皿状に湾曲せしめた透明樹脂シートの下縁を凸状円弧形状に切断した試着用つけ睫毛支持具が開示されている。試着用つけ睫毛はその基部を支持具の表面下縁に沿って接着することによって支持具に装着される。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】実用新案登録第３０９０２６２号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
而して、本考案者等の経験によれば、上述した従来の試着用つけ睫毛支持具には、次のとおりの解決すべき問題が存在する。第一に、顧客が試着用つけ睫毛を瞼に近接せしめて試着せんとする際には、皿状に湾曲せしめられた支持具を指で把持することが必要であるが、支持具が比較的小さいことに加えて全体として皿状に湾曲せしめられているが故に、指による把持が必ずしも容易でない。第二に、近時においては上つけ睫毛のみならず下つけ睫毛も製造され販売に供されているが、特許文献１のつけ睫毛支持具は、試着用上つけ睫毛には対応することができるが試着用下つけ睫毛には対応することができない。第三に、当該つけ睫毛支持具には、試着用つけ睫毛が如何なる商品であるかを表示するための手段を表示するためのスペースが存在せず、試着したつけ睫毛が実際に販売されている多種の商品のどれに該当するのかを判別することが著しく困難である。
【０００５】
本考案は上記のとおりの事実に鑑みてなされたものであり、その主たる技術的課題は、顧客が試着用つけ睫毛を瞼に近接せしめて試着する際に充分容易に指で把持できることに加えて、試着用上つけ睫毛のみならず試着用下つけ睫毛にも適用することができ、そして

更に必要に応じて試着用つけ睫毛が如何なる製品であるかを示す表示片等を貼着するためのスペースを確保することができる、新規且つ改良された試着用つけ睫毛支持具を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

本考案者等は、鋭意検討及び実験を重ねた結果、主部とつけ睫毛装着部とを一体に形成し、主部は平面形状に、つけ睫毛装着部は所要の曲面形状に設定し、そして更につけ睫毛装着部の上縁を試着用下つけ睫毛に対応する凹状曲線形状に、つけ睫毛装着部の下縁を試着用上つけ睫毛に対応する凸状曲線形状に設定することによって、上記主たる技術的課題を達成できることを見出した。

【０００７】

即ち、本考案によれば、上記主たる技術的課題を達成する試着用つけ睫毛支持具として、シート片から一体に形成された主部とつけ睫毛装着部とを有し、該主部は平面図において直線状に延在する平面形状であり、該つけ睫毛装着部は平面図において弧状に延在する曲面形状であり、正面図において該つけ睫毛装着部の上縁は凹状曲線形状であり下縁は凸状曲線形状である、試着用つけ睫毛支持具が提供される。

【０００８】

好ましくは、該主部は正面図において矩形状であり、該つけ睫毛装着部の、該主部に接続されている内側接続縁は、該主部の内側接続縁と完全に合致し、該つけ睫毛装着部の外側自由縁は該つけ睫毛装着部の該内側接続縁と平行で且つ同一長さである。該シート片は合成樹脂シート片であり、そしてまた該シート片は透明であるのが好都合である。該主部の上端部には正面図において左右方向に細長く延びる係止用スリットが形成されているのが好適である。

【考案の効果】

【０００９】

本考案の試着用つけ睫毛支持具においては、試着用上つけ睫毛はつけ睫毛装着部の凸状曲線形状である下縁に、又はこの下縁に沿ってつけ睫毛装着部の表面下端部に装着し、試着用下つけ睫毛はつけ睫毛装着部の凹状曲線形状である上縁に、又はこの上縁に沿ってつけ睫毛装着部の表面上端部に装着することができる。顧客が試着用つけ睫毛を瞼に近接せしめて試着する際には平面形状である主部を指で充分容易に且つ確実に把持することができる。試着用つけ睫毛が如何なる製品であるかを示す表示片等は、必要に応じて主部の表面或いは裏面に貼着することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本考案に従って構成された試着用つけ睫毛支持具の好適実施形態を示す正面図。

【図２】図１に示す試着用つけ睫毛支持具の平面図。

【図３】図１に示す試着用つけ睫毛支持具の斜面図。

【図４】図１に示す試着用つけ睫毛支持具を上つけ睫毛に適用した状態を示す正面図。

【図５】図１に示す試着用つけ睫毛支持具を下つけ睫毛に適用した状態を示す正面図。

【考案を実施するための形態】

【００１１】

以下、添付図面を参照して、本考案に従って構成された試着用つけ睫毛支持具の好適実施形態について、更に詳細に説明する。

【００１２】

図１及び図２を参照して説明すると、本考案の試着用つけ睫毛支持具２は、シート片から一体に形成された主部４とつけ睫毛装着部６とを具備している。支持具２を示す平面図である図２において、主部４は平面形状であり、つけ睫毛装着部６は曲面形状であることが重要である。更に、支持具２を示す正面図である図１において、つけ睫毛装着部６の上縁８は凹状曲線形状であり、下縁１０は凸状曲線形状であるのが重要である。

【００１３】

このように、本考案においては、主部４とつけ睫毛装着部６とは一つのシート片から一体となって形成されるのだが、特に左目用の試着用つけ睫毛を装着する場合は、図１に示す如く、主部４の左側につけ睫毛装着部６を設けることが好ましい。この態様にすると、図４及び図５に表されているように、試着時に主部４が顔を覆う面積が少なくて済むので、つけ睫毛の装着効果を正確に確認できるからである。同様の理由から、右目用のつけ睫毛を装着する場合は、主部４の右側につけ睫毛装着部６を設けることが好適である。

【００１４】

前記のように、本考案の支持具２は、主部４とつけ睫毛装着部６との位置関係によって、右目用／左目用が決定されるが、以後、左目用の試着用つけ睫毛支持具を基準として説明をする。

【００１５】

図２に明確に図示する如く、主部４は直線状に延在する平面形状となっており、これにより、試着用つけ睫毛が如何なる製品であるかを示す表示片１２等を容易に且つ強固に貼着することができ、更には、顧客が、本考案の支持具２を用いて、試着用つけ睫毛を自身の目に容易に装着することができる。図２において、つけ睫毛装着部６は、一般的な人の瞼に沿うように弧状に延在する曲面形状となっている。

【００１６】

主部４とつけ睫毛装着部６との間の部分は、任意の形態をとることができるが、成形の容易さの観点から、図１に示すように、つけ睫毛装着部６の内側接続縁１４と主部４の内側接続縁１６とが完全に合致するように成形されるのが好都合である。

【００１７】

（主部）

主部４は、図２及び図３からわかる通り、直線状に延在する平面形状、好ましくは、矩形状をしている。図１から、主部４の長さＬは、６．０～１０．０ｃｍが好ましい。長さＬを６．０ｃｍ以上とすることで、商品パッケージの写真等の商品情報を十分に主部４に表示することができる。また、長さＬを１０．０ｃｍ以下とすると、主部４を把持する手とつけ睫毛を試着する目とが離れすぎていないので、顧客が楽な姿勢でつけ睫毛の試着を行うことができる。

【００１８】

主部４の高さＨは、５．０～７．０ｃｍが好ましい。主部４が５．０ｃｍ以上の高さＨを有することで、顧客に本考案の支持具２を容易に把持させることができ、また、商品情報を十分に主部４に表示できる。更に、試着用上つけ睫毛と試着用下つけ睫毛を同時に本考案の支持具２に装着した場合でも、これらのつけ睫毛が接触しあうことがない。また、高さＨを７．０ｃｍ以下とすると、複数の本考案の支持具２を店頭に配置するにあたり、より多くの支持具２を限られたスペースに並べることができ、且つ、原材料樹脂を過剰に使用せずに済むので経済的利益も生じる。

【００１９】

主部４の厚さは、シート片の原料の種類等によって異なるので一概には規定できないが、一般には、０．５～１．０ｃｍが好ましい。厚さを０．５ｃｍ以上とすることで、長期にわたって店頭に並べられたり、多少乱暴に扱われたりといった過酷な環境下でも、本考案の支持具２がその形状を保つことができる。また、厚さを１．０ｃｍ以下とすると、原料樹脂の使用量を抑制することができる。

【００２０】

ところで、本考案の支持具２が実際に使用される環境、特に、ドラッグストアやバラエティショップ等の量販店で使用される場合には、限られた空間に沢山の種類のつけ睫毛に関する商品が陳列され、更に同じ空間内に、つけ睫毛を装着した支持具を商品数に対応する数だけ配置しなければならない。加えて、顧客が手に取りやすく、元に戻しやすい態様で支持具を配置したいという要望もある。これらの点に関し、本考案の支持具２は、図１が示す通り、主部４に係止用スリット１８を配設することで、狭いスペースに多くの支持具を整然と配置することを可能にしている。係止用スリット１８は、左右方向に細長く伸

びていることを特徴とする。この特徴によって、例えばダブルフック等の係止片を複数取り付けた陳列台に本考案の支持具２を係止せしめるという陳列手段をとることができる。この陳列手段の採用により、複数の支持具を効率良くきれいに陳列することができ、顧客は目当てのつけ睫毛を装着した支持具２を見つけやすく、試着後に元の場所に戻しやすい。

【００２１】

尚、係止用スリット１８は、主部４の上端部に配設されるのが好ましい。また、係止用スリット１８の左右方向の長さは、係止片や主部４自体の大きさに合わせて適宜決定されればよい。

【００２２】

（つけ睫毛装着部）

次に、本考案の試着用つけ睫毛支持具２のつけ睫毛装着部６について説明する。既に述べたように、つけ睫毛装着部６は、図２において、弧状に延在する曲面形状をしているが、図１に表されているように、主部４側に存在するつけ睫毛装着部の内側接続縁１４に対し、その反対側には、外側自由縁２０が存在する。外側自由縁２０は、好ましくは、つけ睫毛装着部の内側接続縁１４と並行で且つ同一の長さとなる。人間の目においては、上睫毛が生えている上瞼端部の幅と、下睫毛が生えている下瞼端部の幅とがほぼ一致している事、及び、下つけ睫毛の試着時につけ睫毛装着部６が鼻に当たる等の不都合を考慮したものである。

【００２３】

更に、つけ睫毛装着部６は、図１においても、その一部が曲線形状となるよう成形されている。即ち、つけ睫毛装着部６の上縁８は、試着用下つけ睫毛が装着できるよう凹状の曲線形状となっており、一方、下縁１０は、試着用上つけ睫毛が装着できるよう凸状の曲線形状をしている。上縁８及び下縁１０がこのような形状を有していることにより、本願の支持具２においては、上つけ睫毛のみ又は下つけ睫毛のみが商品となっている場合には、適宜、下縁１０若しくは上縁８に、又は下縁１０若しくは上縁８に沿ってつけ睫毛装着部６の表面下端部若しくは上端部に試着用上つけ睫毛又は試着用下つけ睫毛を装着して、顧客の使用に供すればよい。また、上つけ睫毛と下つけ睫毛がセットで商品となっている場合には、下縁１０と上縁８のそれぞれに試着用上つけ睫毛と試着用下つけ睫毛を装着して、一つの支持具２でセット内の両方のつけ睫毛を試着できるようにすることができる。

【００２４】

従って、上縁８の凹状の曲線形状又は下縁１０の凸状の曲線形状は、一般的な人の、下睫毛が生えている下瞼端部の形状又は上睫毛が生えている上瞼端部の形状を模していることが好都合である。また、つけ睫毛装着部６の内側接続縁１４と外側自由縁２０との距離ｄは、市場に流通しているつけ睫毛の大きさに対応できるだけの長さを少なくとも有している必要があり、より好ましくは、試着用つけ睫毛を支持具２に装着しやすくする観点から、多少のゆとりが設けられていると好適である。具体的には、内側接続縁１４と外側自由縁２０との距離ｄは４．０～６．０ｃｍとなっていることが好ましい。

【００２５】

つけ睫毛装着部６の厚さとしては、一般に、主部４と同じ厚さが採用される。

【００２６】

尚、つけ睫毛装着部６における外側自由縁２０とつけ睫毛装着部上縁８及びつけ睫毛装着部下縁１０との境界領域には、顧客の眼内に侵入して損傷せしめる虞を回避するために、必要に応じて丸みを施すことができる。更に、主部外側縁２２と主部上縁２４及び主部下縁２６との境界領域も、同様に、丸みを施すことができる。

【００２７】

また、後述するように、つけ睫毛をつけ睫毛装着部６の表面に固定して本考案の支持具２を使用する場合には、図１に示す如く、つけ睫毛装着部６の上縁８に沿ってその下側を凹状に延びる接着案内没入ライン２８を形成し、そしてまた、つけ睫毛装着部６の下縁１０に沿ってその上方を凸状に延びる接着案内没入ライン３０を形成すると良い。これらの

接着案内没入ライン２８及び３０に沿って試着用下つけ睫毛及び試着用上つけ睫毛を容易に接着するようにせしめることができるからである。

【００２８】

（製造・使用方法）

これまで述べてきた特徴を有する本考案の試着用つけ睫毛支持具２は、それ自体公知の方法によって製造される。例えば、熱可塑性樹脂シートを用意し、このシートを適当な形状に切断し、その後、加熱して軟化させ、折曲加工を施すことによって製造することができる。

【００２９】

前記シートの原料としては、特に制限はなく、公知の合成樹脂、例えば、ポリエチレンテレフタレート等のポリエステル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、アクリル樹脂等の熱可塑性樹脂やフェノール樹脂等の熱硬化性樹脂を用いることができる。本考案の支持具２が、例えば百貨店の化粧品カウンターのように、専門の販売員によって顧客に提供されるような場合には、アクリル樹脂が好適である。アクリル樹脂は透明度が高いため、顧客がつけ睫毛の効果を把握しやすく、そして、硬度が高いので長期にわたり支持具２が所要の形状を保持することができる。アクリル樹脂としては、特に、ポリメチルメタクリレート（ＰＭＭＡ）が好適である。一方、本考案の支持具２が、例えば、顧客が自由に試着を行うドラッグストアやバラエティストアのような場所で使用される場合には、製造コストや形状保持性及び可撓性のバランスの観点から、ポリエステル、ポリエチレン又はポリプロピレンが好適であり、ポリエステルが特に好適である。ポリエステルとしては、ポリエチレンテレフタレートが好ましく、特に、テレフタル酸ジメチルとエチレングリコールとから得られるポリエチレンテレフタレート；やテレフタル酸とエチレングリコールとからなるホモポリエステルに、エチレングリコールの一部をシクロヘキサンジメタノールで代替した、グリコール変性ポリエステル；が好ましい。

【００３０】

前記の原料となる樹脂には、必要に応じて、公知の樹脂用添加剤を添加することができる。公知の樹脂用添加剤としては、例えば、界面活性剤、光安定剤、酸化防止剤、紫外線安定剤、紫外線吸収剤、離型剤、着色防止剤、帯電防止剤、染料、顔料、香料、可塑剤が挙げられる。

【００３１】

また、皮脂や化粧品の付着を防いだり、折り曲げ・衝撃による白濁が生じないよう、本考案に用いるシート片を多層構造とすることができる。

【００３２】

本考案の支持具２において、前記シート片の色としては特に制限はないが、顔全体としての印象を確認しながらつけ睫毛の試着ができるという点で、透明であることが好ましい。透明とは、肌から１ｃｍの位置にシート片を配置した時に、このシート片を介して肌の色が視認できる程度の光透過性を有することを意味する。

【００３３】

製造された本考案の支持具２は、試着用つけ睫毛を装着し、或いは、パッケージの写真等の表示片１２等を貼着した後で市場に流通させてもよいが、流通時の取扱性の観点や、つけ睫毛の種類等の店舗ごとの状況の違いに柔軟に対応できるという観点から、試着用つけ睫毛や表示片１２等を貼着していない状態で流通させることが好ましい。

【００３４】

本考案の支持具２を入手した各小売店等は、適宜、支持具２に適用したい商品（つけ睫毛）を、つけ睫毛用接着剤等公知の接着剤を用いて支持具２に接着する。このとき、試着用上つけ睫毛は、つけ睫毛装着部６の表面下端部に、下縁１０に沿うようにして固定してもよいが、つけ睫毛装着部６の下縁１０自体に固定する方がより好ましい。つけ睫毛装着部６の表面に固定すると、実際に顧客がつけ睫毛を装着して目を開いたときの、瞼に対するつけ睫毛の毛の角度を再現するのが必ずしも容易でないからである。即ち、あたかも目を伏せたときのように、上つけ睫毛の毛が下方を指向した状態で固定されてしまうからで

ある。一方、上つけ睫毛を下縁１０自体に固定する場合には、接着剤によって上方向に力が働くので、上つけ睫毛の毛が適切な角度で上方を指向する。

【００３５】

同様の理由により、試着用下つけ睫毛は、つけ睫毛装着部６の表面上端部に、上縁８に沿うようにして固定してもよいが、つけ睫毛装着部６の上縁８自体に固定するのが良い。また、部分用つけ睫毛やポイント用つけ睫毛の場合には、これらのつけ睫毛が、目のどの部分に本来付けられるものなのかを考慮し、その部分に対応する位置に接着する。

【００３６】

更に、各小売店等は、本考案の支持具２の主部４に、表示片１２を貼着したり、印刷を施すことができる。即ち、商品名や品番は勿論のこと、実際の商品の外観（パッケージの外観）、モデルがつけ睫毛を使用している状態の顔写真や目の拡大写真、テスターの使い方の説明、店員やタレントのコメント、価格、販売元、雑誌の紹介記事の画像といった情報を、１枚の表示片１２に表示し、或いは、複数の表示片１２に表示し、この表示片１２を貼着することができる。従来の試着用つけ睫毛支持具にはこのように大量の情報を載せるだけのスペースが存在せず、顧客が実際の商品を探すにあたり多大な労力を強いられてきた。更には、試着時に得られる情報にも限界があった。しかしながら、本考案においては、これらの情報を主部４に載せることにより、こうした問題が解決されている。

【００３７】

更に、本考案の支持具２によれば、上述の情報に加えて、商品紹介サイトのＵＲＬや二次元バーコードといった情報も、主部４への表示片１２の貼着等の手段によって顧客に提供することができる。顧客は自身の携帯電話等を用いてＵＲＬや二次元バーコードからインターネットにアクセスし、口コミ情報等の一層多くの情報を得ることができる。

【００３８】

前記情報は、表示片１２へ印刷・貼着されるだけでなく、主部４に直接印刷されることによっても載せることができる。印刷や表示片１２の貼着は、主部４の表面又は裏面のいずれに施してもよい。

【００３９】

試着用つけ睫毛及び表示片１２が装着された本考案の支持具２は、必要に応じて設けられる係止用スリット１８を以て、陳列台等に並べられ、以後、顧客に供される。

【００４０】

顧客は、例えば、上つけ睫毛の試着をする際には、図４に示されているように、主部４を左手で把持し、試着用上つけ睫毛３２の装着された本考案の支持具２を、目を開いた状態で、つけ睫毛装着部下縁１０が上瞼端部に沿うまで左眉近傍から降下させ、自身の左目のカーブや形に合うように、この支持具２の位置や角度を微調整し、鏡で上つけ睫毛３２の装着効果を確認する。

【００４１】

下つけ睫毛の試着をする際には、図５に示されているように、主部４を左手で把持し、試着用下つけ睫毛３４が装着された本考案の支持具２を、目を開いた状態で、つけ睫毛装着部上縁８が下瞼端部に沿うまで左頬近傍から上昇させていき、自身の左目のカーブ等に合うように支持具２の位置等を微調整し、鏡で下つけ睫毛３４の装着効果を確認する。

【００４２】

上つけ睫毛と下つけ睫毛とがセットとなって販売されている場合には、それぞれのつけ睫毛が装着された２つの支持具２を用いて、前述の方法に従って、順次、本考案の支持具２を使用してもよい。また、１つの支持具２内において、その上縁８には下つけ睫毛３４を、下縁１０には上つけ睫毛３２を装着した状態で、やはり、前述の方法に従って、装着効果を順番に確認してもよい。

【符号の説明】

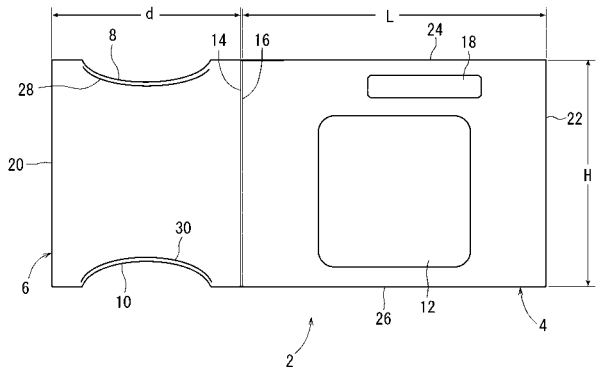
【００４３】

２：　試着用つけ睫毛支持具

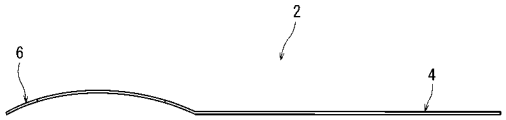
４：　主部

６：　つけ睫毛装着部
８：　上縁
１０：　下縁
１２：　表示片
１４：　内側接続縁
１６：　内側接続縁
１８：　係止用スリット
２０：　外側自由縁
２２：　主部外側縁
２４：　主部上縁
２６：　主部下縁
２８：　接着案内没入ライン
３０：　接着案内没入ライン
３２：　試着用上つけ睫毛
３４：　試着用下つけ睫毛
Ｌ：　主部の長さ
Ｈ：　主部の高さ
ｄ：　つけ睫毛装着部の長さ

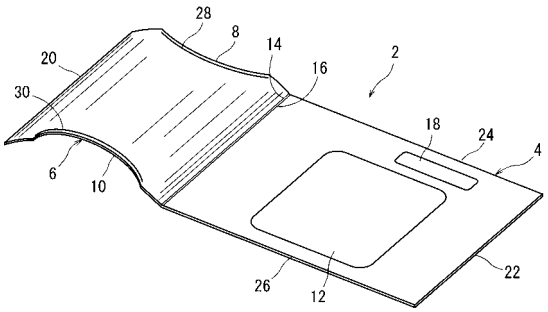
【図１】



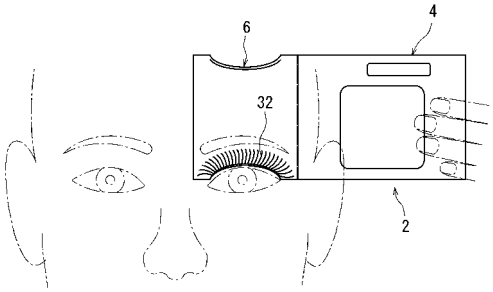
【図２】



【図３】



【図４】



【図５】

